

☆ 1週間からOK! 短期留学 ☆

オーストラリアとニュージーランドは多民族国家であり、英語を母国語としない移民や留学生を積極的に受け入れてきた歴史的背景があるため、英語教育の実績は高く評価されています。

短期留学では、英語の勉強はもちろん、ホームステイや現地での生活の中で実際に学んだことを活かしながら、バランスよく英語力を高めることができます。

また、現地の人や他国からの留学生と交流することで様々な文化を知ることができ、さらには日本文化の新たな発見があることでしょう！

〈年齢〉

小学生から社会人、シニアの方まで年齢問わず留学することが可能です。

〈期間〉

留学期間は1週間から3か月まで選べます。

観光ビザでの滞在が可能です。

学生の方は…

夏休みなどの長期休暇を利用して、異文化交流や、英語力向上に!

最近では海外大学進学や長期留学前の視察のために行かれる方も多いです。

社会人、シニアの方は…

1週間から可能なプチ留学で、英語力アップとともに観光も兼ねてリフレッシュ!

バリスタ体験やワイナリーを巡りetc 英語 + aの留学プランもおすすめてです。

〈滞在方法〉

基本的には、短期留学の方はホームステイでの滞在となります。

実際に現地の人々の生活を体験し、日本での生活との違いを知ることによって新たな発見があるだけでなく、英語学校で勉強したことを活かす絶好の場所にもなります!

ご要望に応じて、アパートメントタイプの滞在先をご紹介することも可能です。

〈留学費用〉

留学費用は、行先や学校、滞在方法などによっても違いがあります。

授業料と滞在費の他に、航空券代、海外保険料、現地での生活費がかかります。

出発する時期などでも異なりますので、よくご検討ください。

【留学費用例（2週間滞在の場合）18歳以上】

一般英語コース

授業料：A\$350/week × 2週間 = A\$700

登録費：A\$100

教材費：A\$10 × 2週間 = A\$20

滞在費（ホームステイ）：シングルルーム（3食付/7日）A\$330 × 2週間 = A\$660

合 計：A\$1,480（約 107,197円）※2019年10月現在

※この他に空港送迎を希望の場合は追加料金がかかります

※大学附属英語学校は原則5週間からの留学になります。

〈英語学校の種類〉

英語学校には「私立英語学校」と「大学附属英語学校」があります。

●私立英語学校の特徴

アクティビティが充実しており、楽しみながら英語を習得することができます。
ホスピタリティ（CA・ホテル）、スポーツなど英語と共に専門的なスキルを学べるプログラム、小学生や親子で参加が可能なプログラムなど、各学校が強みや特色を持っています。

●大学附属英語学校

大学・大学院進学、認定（休学）留学をする人の準備コースが充実しています。
大学構内に設置されており、大学の施設を利用することが可能です。
原則としてはプログラムは5週間からとなります。

〈コース〉

コースは英語学校によって異なりますが、一般的には以下のようなコースが受講できます。

- ・一般英語（General English）
- ・ビジネス英語（Business English）
- ・検定英語（TOEIC、TOEFL、IELTSなど）
- ・語学+α（インターン、バリスタ体験など）

※様々なプランがございますので、ご興味のある分野がございましたらお問い合わせください。

英語学校では初めにプレースメントテストを受けて、ご自身のレベルにあったクラスに配置されます。英語力に自信がなく、クラスについていけないか不安な方もご安心ください。

クラスの勉強だけでなく、積極的に日常生活でも英語を使用することでさらなる英語力アップにつながるでしょう！

MECでは、オーストラリアとニュージーランドの各都市の英語学校をご紹介します。こちらに記載している内容だけでなく、ご希望に合った学校をご紹介しますので、是非[お問い合わせ](#)ください。



短期留学を終えた方の体験談が次のページ以降にあります。

- ・留学先：ウィリアム・アングリス・インスティテュート(WAI) 期間：6ヶ月 Mさん
- ・留学先：RMIT（ロイヤル・メルボルン工科大学）附属英語学校 期間：1ヶ月 Tさん
- ・留学先：ELS Sydney 期間：3週間 Tさん
- ・留学先：ビクトリア大学附属英語学校 期間：5週間 Oさん
- ・留学先：ビクトリア大学附属英語学校 期間：5週間 Iさん

ぜひご覧ください！

WAIの授業について

私が選んだ留学生用のカリキュラムでは、コースごとに選択する授業がある程度決まっている現地の学生に比べ、自分の好きな授業を比較的自由にとることができました。

具体的な授業内容

私は、WAIで主に、以下の4つの授業をとりました。“食糧生産”についての授業、“美食学”の授業、“発酵”についての授業、調理の実践授業です。現地の学校に行く前に、授業を選択しましたが、その時は、授業内容の説明を読んでもどんな授業かあまり分からず、何となく、で選んでしまいました。しかし学校のオリエンテーション後、担当の先生が一つ一つどんな授業なのか詳しく説明してくださり、自分が本当に興味のある授業を選び直すことができました。

食糧生産の授業 世界規模で、食糧生産について考える授業でした。現在の食糧生産の状況や問題点などを、環境問題も視野に入れた、広い枠組みのなかで学びました。食べ物の大切さや重みを痛感する授業でした。

美食学の授業 哲学的な観点から“食べること”について考えました。歴史と共に人類と食の関係性について学んだり、現代人の食に対する考え方などを授業の中で議論したりしました。

“発酵”についての授業 発酵食品について、身の回り、そして体内に数多く存在する“菌”について学びました。菌と人類の関係を学んだり、自分自身で発酵食品を作ったりしました。納豆や鰹節などの日本の発酵食品についても学び、違う視点から身近な食べ物について考えることができ、とても面白かったです。

調理の実践授業 キッチンで調理を行う授業です。実際、私は料理などほとんどしたことがありませんでしたが、本格的かつ実践的に調理を学ぶことができ、この授業をきっかけに家でも料理をするようになりました。ヨーロッパや東南アジアの料理を主につくり、今まで、レストランでしか食べたことのないものを自分で作ったのはとても楽しかったで、料理に興味のある方には是非お勧めです。包丁の使い方など、基本的なところから教えてくださるので、初心者の方でも大丈夫です。

WAIの留学生へのサポートについて/課題について

WAIは、留学生の勉強をサポートするサービスがたくさんあります。私も、課題に苦労したこともありましたが、WAIのサポートを大いに利用しました。

まず、先生方がとても熱心で親切です。質問しに行くと、親身になって答えてくれ、課題に取り組む際のアドバイスなどをくださりました。そして図書館には、留学生の課題をチェックしてくださるアドバイザーの方もいらっしゃいます。

WAIの課題は大きく分けると、プレゼンテーションとエッセイの2種類です。私の場合、プレゼンテーションは自分で何とか用意することができたのですが、エッセイは、英語での参考文献の書き方が分からなかったり、自分では気が付かない文法ミスがあったりして、苦労しました。しかし、先生方に重要なポイントを何度も質問・確認したり、エッセイを提出する前に、アドバイザーの方に一度読んでもらったりしました。当時はとてもこの課題には苦労しましたが、今考えると、英語の参考文献をたくさん読んで、エッセイを書き上げたことは、その分野の理解が深まるだけでなく、総合的な英語力の向上にも大きく貢献したと思います。

お友達との時間

オーストラリア、イギリス、ベトナム、韓国、中国、インド、ポルトガル……といったように、様々な国出身のクラスメートと共に授業を受けることができたのは、とても貴重な経験になりました。世界各国の人が話す英語に触れることができたのは、今後英語を使う場面で役立つと思います。WAIでは、学校内で定期的に多くのイベントが行われます。無料で参加できるパーティーや、手ごろな価格で行ける一日観光ツアーなどがありました。私はワイナリーをめぐるツアーに参加しました。そういったものに積極的に参加することで、友達の輪が大きく広がるので、是非、参加してみてください。

語学留学の動機・きっかけ

大学入学後、自由な時間を多く手に入れた私は、約2ヶ月に渡る夏期休業を活用して、短期留学をしたいという衝動に駆られた。しかし、憧れからすぐに決断へと移すことができなかったため、どうやって手続きを進めていいのかわからず、私は途方にくれた。そんな時、MECの存在を知り、留学準備、手続きから留学中、そして留学後まで、多くのサポートをしていただき、大いに助かった。

メルボルンでの生活

留学中のことについて。まず、住居のことだが、民間のシェアハウスを利用した。現地は冬で、時には0度を下回ることもあるほど寒かったが、薄い掛け布団とブランケット一枚しか置いておらず、最初の頃は寒さに悩まされた。幸い、近くに住む親戚が羽布団を調達してくれたため、助かった。他には、シングルルームを選択したため、日本では味わうことのできなかった「短期一人暮らし」ができ、自分一人の空間、時間を確保できたことが嬉しかった。

RMIT英語学校での生活

現地について3日ほど経つとRMIT英語学校が始まった。英語学校であるため、中国・韓国をはじめとした東アジアの生徒や、中東からの生徒が多かった。最初、新しい環境に慣れることに精一杯だった私は、緊張感にあふれていたが、日本と異なり、多国籍のクラスの雰囲気と、気さくで親切、ときには気前の良い人々に巡り会え、一日一日を心から楽しむことができた。また、グループディスカッションなどのグループワークも多く、日本とは異なる、リベラルかつアクティブな学問体系も体験することができた。

放課後はそのまま滞在先に戻り、買い物や夕飯準備をしたり、クラスメイトや親戚と夜ご飯やカフェで軽食をとったりと、とても充実した日々を送ることができた。

オーストラリアと日本の生活の違い

オーストラリアと日本の違いについて、度々考えることがあった。まず、土着でない新しいものを受容する柔軟さ。これは現地で顔見知りでない人が主催するホームパーティに参加し、温かく迎え、楽しませてくれたときや、大学内で多国籍の生徒を多く目にしたことから感じた。（多くの地域では同国籍の人々によって結成されるコミュニティーもあったが）確かに日本人はよく親切と言われるが、まだ完全に外部からの人々の受容に寛容であるとはいえない。また、何かあったとき、英語が通じないことが多いというのも難点である。

留学の感想

結果から言うと、一ヶ月という期間はやや短かったかもしれない。しかし、今回の経験は確実に自分を大きく成長させ、今後の長期留学を考える際の大きな参考となった。

留学先： ELS Sydney 期間： 3週間 Tさん

留学を決めた理由

自分の力を試したかったのと、就職したらなかなか体験できないので、就職する前にしたかったので今しかないと思ったから。

現地での生活で気に入ったところ

学校の場所が良かったです。オペラハウスまでもとても近く、都心で何でもあるので放課後学校の友達と歩いて買い物やお茶をしたのがとても楽しかった。

学校の授業について

最初のテストによってレベルごとにクラスがわかるので、自分にあった授業が受けられるのでとてもやりやすかったです。少人数で授業するので質問しやすかったです。先生方もとてもフレンドリーで授業もとても楽しかったです。

ホームステイについて

ホストファミリーは優しくいつも笑顔で接してくれ、すごくいい人でした。ご飯も美味しかったです。夕飯を食べながらホストマザーと1日の出来事を話すのがとても楽しかったです。ホームステイにして本当に良かったと思いました。

思い出に残った事

休日に友達とsurf campに行ったのがいい思い出になりました。学校で予約したので安く行けたし、2泊3日でとてもいい思い出になりまして。3週間というとても短い時間でしたが、色々なところでたくさんの人と出会えました。それがとても嬉しかったし、毎日がとても楽しかったです。

留学先： ビクトリア大学附属英語学校 期間： 5週間 Oさん

留学の理由

私は今年68歳ですが、かねてから会社勤務を終えてもそのあとの人生において何か打ち込めるものを探しておりました。そして今年の6月に会社を退くことになりました。現役時代に海外業務に関わったものの英語を習熟したとはとても言えず、この不満を解消しこれからの人生で英語にかかわりたいとの思いがあり、6月のオーストラリアへの留学説明会に参加し海外での勉強が可能であることがわかりました。実行にあたってMEC殿の親切な指導で不安なく渡航できビクトリア大学の語学研修に参加できました。

英語学校の授業について

学校では20代の青年たちに混じって5週間の英語レッスンを受けました。学校の教務の大塚先生、マツト先生、ナタリー先生には大変お世話になり感謝いたしております。この期間では全授業に出席し自分では英語のレベルをあげられたとは思いますが、同時にまだまだ狙ったレベルへは遠いと感じました。帰国後も近所の大学の社会人講座に通い、英語学習を続けております。今しばらく集中して英語学習を続けようと思います。

留学の感想

今回の海外滞在で思い知らされたのは英語の存在の大きさ、それにリンクしたパソコン・スマホをインターネットで駆使する時代が大きな流れを作っていることです。ものづくりで世界を日本がリードした時代から大きく変わっていることです。このことに多くの日本の方が気づいて世界の流れについてほしいと思います。

最後に、メルボルンの市内をほぼ自分の足で歩き、帰国前に合流した家内と訪れたきれいなガーデンを含めたメルボルンの思い出を大事にしたいと思っております。

留学先：ビクトリア大学附属英語学校 期間：5週間 Iさん

ビクトリア大学英語コースで2ヶ月間の留学を体験しました。まず、信頼できるエージェントのもとで、長い間の憧れが実現できたことにお礼を申し上げたいと思います。

英語学校について

授業は、1クラス16名、8ヶ国。午前午後合わせて4時間。土日祝日は、休み。私のクラスでは、留学期間中の目標として与えられたのは、あるまとまった内容について人の前で話ができるようになることでした。最後に発表会があり、概ね、達成できたと思います。

制度や手続きについては、わからないことは聴き、何にでもチャレンジしました。周囲の人たちは、移民の国ということもあり皆さん親切です。学生割引が使えたのも嬉しい思い出です。特に博物館の入場がタダになったりします。（帰国後は、老人割引が始まりそうだと友人に冷やかされました。）気分転換のエクスカージョンでは、博物館などに行きましたが、施設の人が引率者と勘違いするのか、どちらかと言うと大人の立場で若い同級生を見守る立場にならざるを得ず、自然にリードしながら、自分もエンジョイしました。とにかく、たくさんの人たちと会話することを心がけて、いろいろなイベントに参加しました。

私は、東北のボランティアでの体験や祭りでの踊りについて、少し用意しておいたので、プレゼンテーションの課題には、迷うことなく進めることができました。現地の材料で、小道具の扇子や面は、手作りしました。図書館で日本文化について調べ直したり、良い経験となりました。

朝、学生ラウンジに行き、違うクラスの留学生とも、挨拶をするように心がけておきました、そのためか、多くの友達ができました。そのネットワークから、どこに行けば、美味しいものが食べられるか、どこに行くとバーゲンセールがあると言うような暮らしに役立つ情報が入ってくるようになりました。

休暇は、タスマニア島に行きました。船の博物館に行くことができ、これも夢の実現です。

勉強方法での工夫は、留学生は英語圏の人が少ない事から、意識して英会話のチャンスを作りました。昼休みの時間を利用して、メルボルン中心地の公園でシティガイドや散歩や観光に来ている人たちと会話をしました。午後の授業の後には、博物館、図書館、買物。日曜日は、教会、博物館のギャラリートーク、市場。古本市。博物館の会員になり、講座にも参加しました。オーストラリアは、たくさんの民族が集まっていて、それぞれの文化を持っています。最初は、勇気が要りますが、きっかけができると誘われることも多く、コンサートやパーティーに参加しました。キリスト教、ユダヤ教、イスラム教など各宗教から、気付くことはたくさんありました。

お勧めのスポットとして、クック船長の生家があります。イギリス本国から移築されていて、大航海時代が忍ばれます。

帰国後の変化として、東京オリンピック、パラリンピックの都市ボランティアに合格し、その準備を始めています。シドニーオリンピックのボランティアの経験者と会うことが出来たのも、ボランティアを支える励みになりそうで、留学の成果の1つです。英語に関して言えば、昭和の教育を受けた世代としては、これまで受けたことのない刺激になったと思います。

最後に

留学がうまく行くかどうか、事前の準備が大事であることを痛感しました。そのために留学前には、質問にきめ細やかなアドバイスをいただきました。基本的には、完全に自立して生活しますが、もしもの時に備えて置くことも大事だと思っています。また、メルボルンでは、ビクトリア大学に日本人のスタッフがいることに大きな安心感がありました。